

山陰・島根ジオパーク構想の最近の取り組みについて

Recent efforts on construction of San-in-Shimane Geopark

赤坂 正秀 [1]; 高須 晃 [2]; 林 広樹 [3]

Masahide Akasaka[1]; Akira Takasu[2]; Hiroki Hayashi[3]

[1] 島根大・総合理工・地球資源環境; [2] 島根大・総合理工・地球; [3] 島根大

[1] Dept. of Geoscience, Shimane Univ; [2] Dept. Geoscience, Shimane Univ.; [3] Shimane Univ.

<http://www.geo.riko.shimane-u.ac.jp/geopark/>

島根県には世界遺産の石見銀山, 日本最大の汽水域である中海・宍道湖, 隠岐諸島, 大山・三瓶山などの火山, 仁摩の鳴き砂など, 多様で豊富な地質資源が存在する。これらの中には実際に金属・非金属資源として産業界で利用されているものもあるが, さらに, 研究資源, 教育資源, 観光資源などの複合的な観点でとらえることにより, 地質資源の価値を高めることができると考えられる。こうした地質資源の「総合資源化」は, まさにユネスコの世界ジオパークの哲学と合致する。

島根大学は, 石見銀山に代表される島根県の地質資源の有効利用に関するプロジェクトを推進してきた。2007年度からは, 地質資源の総合資源化を目指した萌芽研究プロジェクト「石見銀山をはじめとする山陰地域地質資源の総合資源化に関する研究」, 2008年度からは石見銀山を中心とする地質資源の総合資源化および山陰・島根ジオパークに関する研究」を実施し, 島根県におけるジオパークの実現に向けた大学としての取り組みを本格化した。日本ジオパーク連絡協議会には設立当初から大学よりオブザーバー参加し, 情報収集および県内関係者への情報提供に努めている。

このプロジェクトの中で, 中国地質調査業協会島根県支部とジオパーク実現のための協議を含めた継続的協力関係を確立した。最初の事業として「山陰・島根ジオサイト100選」選定委員会を作り, 選定作業を進めている。この要旨が執筆されている2009年2月現在で, 県内44のジオサイトについて詳細な見学パンフレットがウェブ上で公開されている。2008年5月10日の「地質の日」には, 特別企画「山陰・島根ジオサイト地質百選シンポジウムと隠岐産黒耀石による石器づくり体験教室」を開催し, 約100名の参加があった。

2008年11月22日には, 隠岐の島町で地域資源活用シンポジウムが開催され, 一般の方々も多数参加してジオパーク構想について意見交流が行われるとともに, ジオツーリズムのモデルコースが紹介された。このように, 県民, 自治体の気運は盛り上がりつつある。今後も引き続き大学サイドからの取り組みを行って, できるだけ早い時期に島根からのジオパークを実現したい。